

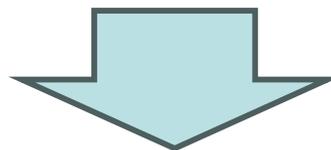
内外水統合型の多段階浸水想定図及び 水害リスクマップの公表について

令和8年2月
福井河川国道事務所

<令和4年度>

流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を公表
土地利用や住まい方の工夫及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討などに活用

⇒国管理区間：各確率規模降雨による外水氾濫（1/10～1/150）



<令和7年度>

気候変動の影響等により全国各地で浸水被害が頻発しており、外水のみならず、発生頻度が高く、社会経済被害が大きい内水にも対応すべく、**内外水統合型**の「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を公表

⇒国管理区間、県管理区間、**その他河川、下水道等**
確率規模降雨による外水+**内水氾濫**（1/10～1/150）

多段階浸水想定図・水害リスクマップ作成の背景

これまで公表してきた浸水リスク情報

- 国や都道府県では、想定しうる最大規模の降雨を対象とした**洪水浸水想定区域図**を公表してきた。
- この図面は、**浸水リスク空白地帯の解消**や**避難計画に資する情報**として想定される最大浸水範囲の明示が主な目的であった。

課題

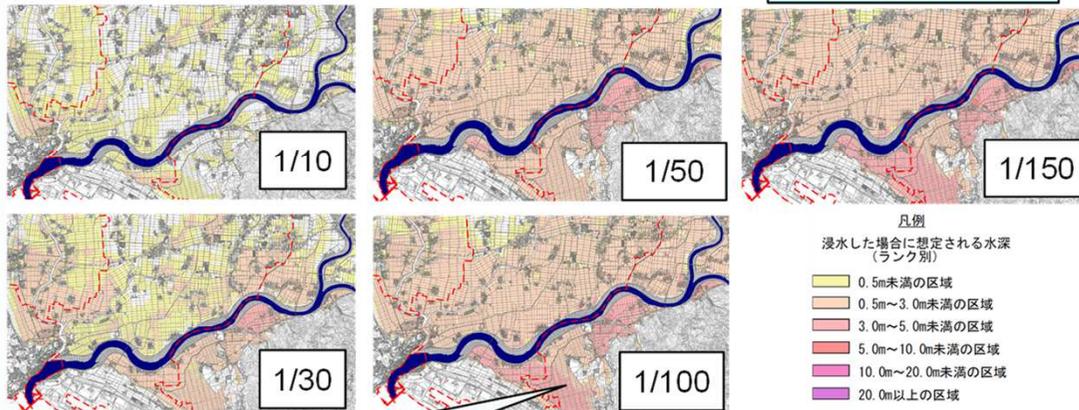
- 従来の浸水想定区域図では、浸水の生じやすさや発生頻度の把握が困難。
- 防災まちづくりや住まい方の工夫、企業のBCP策定には活用しづらい。
- 浸水想定図は、外水氾濫のみを対象としており、内水氾濫が考慮されていない。

浸水の生じやすさや発生頻度を把握できるように、確率規模別に作成した「**多段階の浸水想定図**」や浸水頻度を示した「**水害リスクマップ**」を作成・公表※することとなった。

※九頭竜川本川のみを対象とした図面はR4.3に公表済み

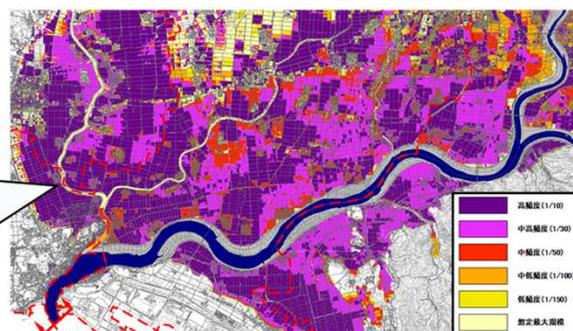
多段階浸水想定図・水害リスクマップについて

多段階浸水想定図



水害リスク図

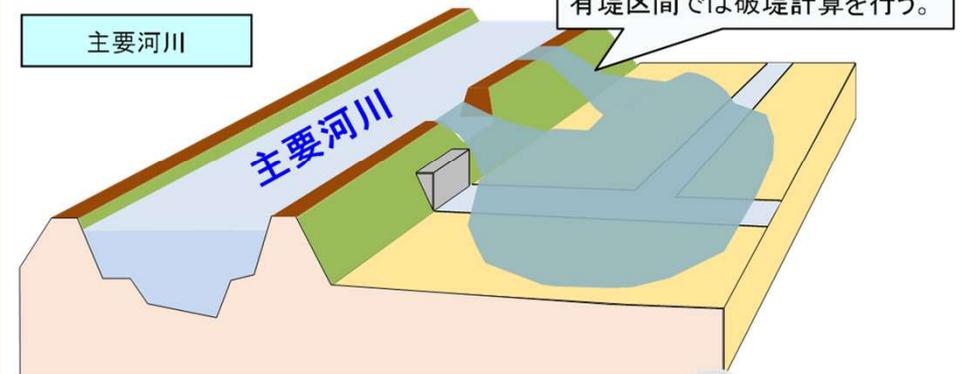
高頻度から中頻度で発生する降雨規模ごと（年超過確率：10年、30年、50年、100年、150年に1度）に作成した浸水想定図。



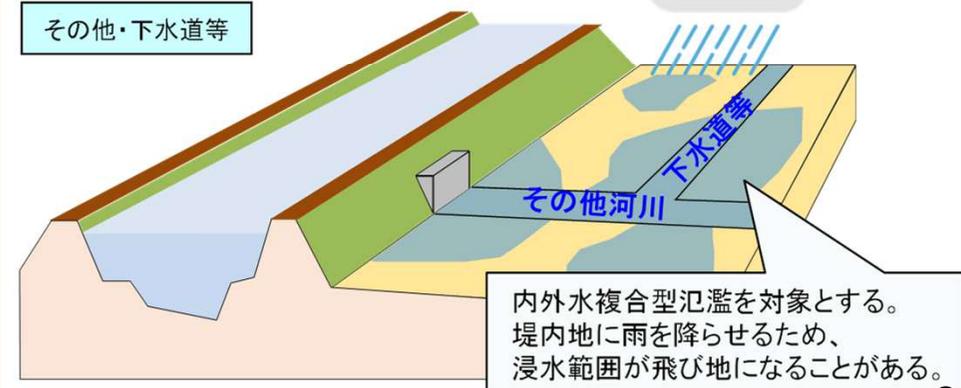
多段階浸水想定図を用いて、降雨規模ごとの浸水範囲を浸水深ごと（0cm以上、50cm以上（床上浸水以上）、3.0m以上（1階軒下浸水以上））に合わせて作成した図面。

対象とする氾濫形態概念図

主要河川

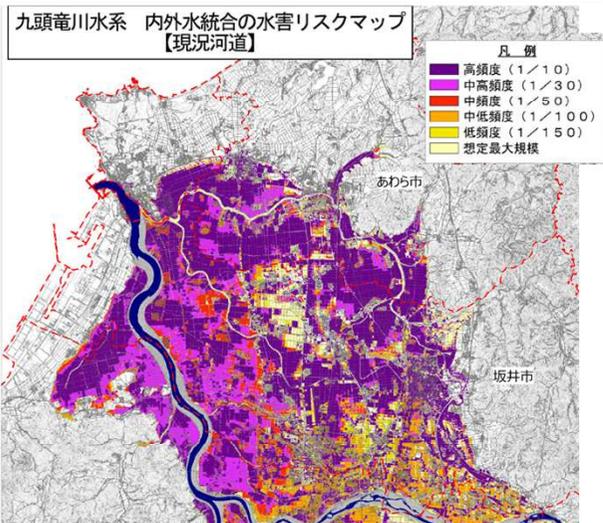


その他・下水道等

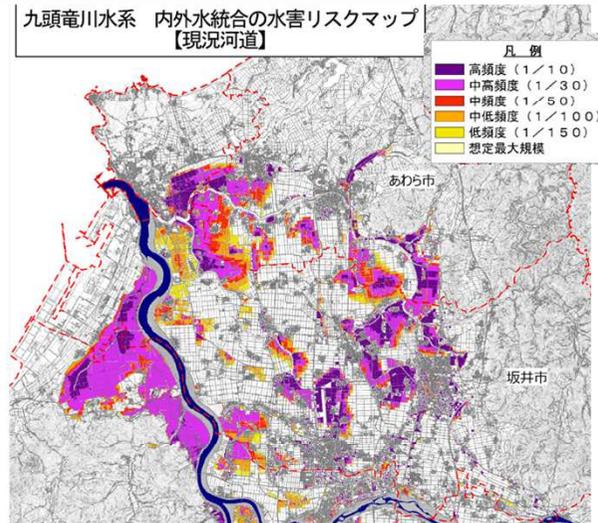


○「住民の避難行動計画の策定」「自治体の土地利用計画や立地適正化計画の検討」「企業のBCP(事業継続計画)策定」「水害保険料率の算定」等に活用されることが期待されている。

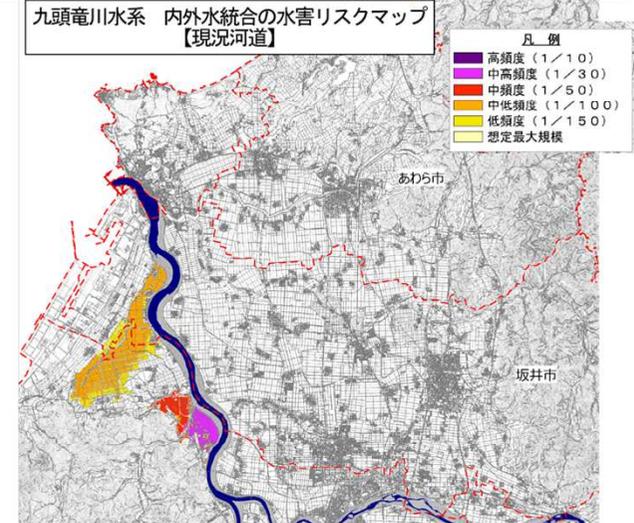
① 浸水が想定される範囲



② 浸水深50cm以上(床上浸水以上)



③ 浸水深3.0m以上(1階軒下浸水以上)



○期待される活用例

【土地利用や住まい方の工夫への活用例】

- ・水害リスクが高い場所を災害危険区域に指定
- ・防災機能を有する公園の整備、居住スペースを2階にする、1階をピロティ構造にする等の住まい方の工夫

【企業立地選択等への利用例】

- ・浸水頻度の高い場所での施設立地計画を避ける
- ・浸水発生確率を踏まえて事業継続に必要な資材を2階以上に移動
- ・止水壁の設置

【水災害リスクを踏まえた町づくり・避難所設置への活用例】

- ・立地適正化計画における防災指針の検討・作成



止水壁の設置



高床化による浸水対策